

第12期 環境市民会議（第1回）議事要録

令和4年1月14日（金） 午前10時～午前12時 於 武蔵野クリーンセンター 見学者ホール

出席者 安藤委員、石射委員、上田委員、小川委員、小餅委員、鈴木委員、
竹嶋委員、藤乗委員、白田委員、山中委員、朝生委員

- 内容
- 1.委嘱状の交付
 - 2.市（副市長）挨拶
 - 3.委員自己紹介
 - 4.委員長・副委員長の選出
 - 5.環境市民会議の運営について
 - 6.武蔵野市環境市民会議について
 - 7.第五期武蔵野市環境基本計画について
 - 8.武蔵野市地球温暖化対策実行計画2021の改定について

1.委嘱状の交付		
新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より机上配布とした。		
2.市（副市長）挨拶		
3.委員自己紹介		
4.委員長・副委員長の選出		
委員長、副委員長の互選を行い、委員長に鈴木委員、副委員長に小川委員が選出された。		
5.環境市民会議の運営について		
事務局が資料2「武蔵野市環境市民会議傍聴要領（案）」と以下3点について説明し、承認された。		
<ul style="list-style-type: none"> ・委員会は公開とし、傍聴を認める。 ・傍聴者に配布する資料は、基本的には委員と同じとする。 ・議事録は、要録を作成する。発言者の氏名は明記しない。 		
6.武蔵野市環境市民会議について		
質疑応答		
	発言者	
	発言要旨	
(1)	A委員	環境市民会議で議論された内容はどのような形で反映されるのか。
	事務局	環境市民会議は何かを決定する会議ではない。専門家や公募市民等、多様な方々で構成されている委員から出た意見を事務局が最大限考慮し、出来る限り計画等に反映させていく。
	委員長	事務局が気付いてない視点や、事務局から提示された報告書を市民目線でどう受け止めるか等の意見は、とても有益なものである。この会議で出た意見が色々な形で反映されることは確かである。積極的なご発言をお願いしたい。

7.第五期武蔵野市環境基本計画について

質疑応答

	発言者	発言要旨
(2)	A委員	環境基本計画は市の行う環境施策の大きな方向性を示しているという説明があったが、これからは何をどの程度やっていくのか、ある程度踏み込んで施策を展開していかないとカーボンゼロは到底達成できないと考える。定量的な目標や具体的な施策は環境基本計画ではなく、その下位の計画で明記されているという理解でよろしいか。
	委員長	A委員の言うように、定量的な目標は個別の計画で個々にたてられている。環境基本計画は、横断的な視点で、包括的にバランスを考えて作られているため、抽象的な表現となり数値目標の記載はない。そうすると計画がどのように達成されているのかという結果が見えづらい。その辺りは各部署の実績を取りまとめた年次報告書で確認していくことになる。
	事務局	ご見解のとおり、環境基本計画は大きな方向性を示すものであり、何をどれだけやっていくか等の目標値を定めるのは各個別計画である。個別計画にも性質があって、全部が全部そうではないが、基本的な考え方はそうなっている。
	A委員	基本計画で戦略を作るにあたり、基本計画の中にある程度定量的な目標を全体像として示さなければ、個別計画を定める際に、各部署の出来る範囲でしか取り組まない形になってしまうのではないか。基本計画の中に優先度をどうつけるのかを盛り込むべきでないか。
	委員長	例えば東京都では住宅における一定の断熱性能の確保や新築ビルにおける太陽光パネル設置の義務化の検討が進みつつあり、そういった大きな意味での実現のための具体的な制度は都（上位）から降りてくる。一方で市で独自にやらなければならないことを、市の特性を考慮して考えていかなければいけない。
	A委員	この分野ではこのぐらい減らす等のある程度定量的な目標を見たうえで話をしないと、市全体としてどこに力を入れて取り組んでいくのかディレクションが決まらないのではと考える。どこをどのくらい重点的にやるのかを決めることで、リソースの内容は変わってくるため、全体像を本来基本計画で指し示すものでないのか。
	副委員長	確かに基本計画のような大上段で具体的なことを示すことも一つのやり方ではある。だが基本計画は10年スパンで作成されており、環境問題やCO2の問題は年々具体的な数値が変化するものである。10年スパンで書くドキュメントに具体的な数値をいれると、大きな数値の変更があったときに、改定作業が発生する。基本計画の下位計画にあたる実行計画は随時改定が可能であり、具体的な数値等は下の階層に落としたほうが作業しやすいという理解である。

	委員長	初回なので今までの説明を受けて、皆さん一人一人のご意見を順番に伺いたい。
	発言者	発言要旨
(3)	委員長	B委員に伺うが、環境啓発施設むさしのエコreゾートは行ったことはあるか。存在を知らなかったり、知っていても利用したことのない人が多い。若い人にまず率先して利用し、宣伝してもらいたい。
	B委員	行ったことはない。市報では紙面がわずかだった。自分が知らないところで環境基本計画のような資料が作られて議論されていることを知らなかった。市民自身がリサーチすることも大切だとは思いますが、もっと武蔵野市の環境について知るきっかけが多くあったら、親しみやすくなるのではないかと思う。
	委員長	C委員は、むさしのエコreゾートをご存知だったか。
	C委員	施設があること自体知らなかった。コロナ禍で有効に使えない状況は続くと思うが、実際に見に行くなどの機会を作り、出来るだけ多くの人が触れられるようになればと思う。
	委員長	今年から自宅にコンポスターを導入し、家庭菜園を行っている。ごみがとても減ったと実感している。このことにも関連して、D委員から武蔵野市のごみについてコメントをいただきたい。
	D委員	家庭ごみのうち4割が生ごみと言われている。家庭の生ごみからはとてもいい堆肥が出来る。クリーンセンターでも持ち込まれた生ごみで堆肥を作り、屋上菜園で利用している。
	委員長	E委員からは、市の環境教育についてご意見を伺いたい。
	E委員	生きものの素晴らしさを知ってもらって、その生きものがある環境を守ろうという意識を持ってもらえるように心掛けている。今年八丈島でアオウミガメが泳いでいる姿を見てきたが、アオウミガメは海に浮いたビニール袋をクラゲと間違えて食べてしまう。このこともあって、生きものを通じて、自分たちにできる身近な環境配慮行動を考えてもらうことが大切だと感じている。
	委員長	E委員の話に関連して、民間企業もプラスチック製のトレーやレジ袋対策に取り組まれていると思うが、その観点からF委員はいかがか。
	F委員	企業も色々取り組んではいるが、お客様に十分に伝えきれていないという課題がある。店頭では資源回収をしており、回収量等のフィードバックを大切にしているほか、小売企業としていつも心掛けているのが、お客様のモチベーション（例えばマイバックを持参していただくこと）を維持できるようにすることであり、そのために一緒にやっていきましょうという姿勢を見せることを意識している。
	委員長	武蔵野市は人口密度が日本で一二を争う市で、店舗も多く、商業的な立地として良いところといえるが、このことについて環境に絡めてのご意見をG委員伺いたい。
	G委員	特に吉祥寺地域は店舗数が多く、ビジネスチャンスが多い立地である。商人は、環境面に関しては決められたことを守るという受け身の姿勢が多いように感じる。一方でレジ袋有料化に伴うエコバックの定着の速さを例に挙げられるように、日本人はモラルが高いので、一丸となって対応することが可能であると考えます。
委員長	最近、自宅のエネルギーの見える化を実現したところだが、H委員にエネルギーに関するコメントをいただきたい。	
H委員	エネルギー会社は化石燃料を売っていかなくてはならない立場であるが、CO2の削減は社をあげて前向きに取り組んでいる。また、地球温暖化対策と同時に災害対策としてのエネルギーの確保に繋がるように取り組んでいる。さらに、環境啓発活動として小中学校に出向いて環境教育を行う出張授業を行っている。	

8.武蔵野市地球温暖化対策実行計画2021の改定について		
質疑応答		
	発言者	発言要旨
(4)	委員長	数字を積み上げて作られる計画と生活実感は中々繋がりにくいと思う。 市レベルで出来ることは何か、この計画をどう読むのかご意見を伺いたい。
	A委員	武蔵野市の特性を考慮すると、消費者の行動変容を上手く転換できるモデルを作り、それが全国に上手く波及すれば、先進モデルになれるのではないかと考える。消費行動を変えるのはとても困難だが、行動を変えるための支援・啓発等に複合的に取り組んでいき、上手く実現できたら、非常に難しい課題を解決した事例となりうるのではないかと考える。
	委員長	数字の細かい積み上げよりも、市民の行動変容をどう起こすかに対して取り組むことがより重要であると考えます。
(5)	B委員	資料5のP9文章の間違いの指摘（「エネルギーの増加要因」と「減少要因」が逆に記載されている）。 同資料P13を見ると「エネルギーの使用に伴う二酸化炭素」に比べて「廃プラスチック類の焼却に伴う二酸化炭素」の減少は難しいと読み取れるが、それはなぜか。削減目標自体も「エネルギーの使用に伴う二酸化炭素」よりも「廃プラスチック類の焼却に伴う二酸化炭素」の方が低く設定されているので、技術的な問題で難しいということか。武蔵野市ではプラスチックは分別して捨てるように案内していると思うが、「廃プラスチック」の定義とは何か教えてほしい。
	事務局	武蔵野市の分別でいうと、容器包装プラスチックはプラスチックごみとして、それ以外のプラスチックは燃やすごみとして出すことになる。この燃やすごみの中に入ってくるプラスチックが「廃プラスチック」である。燃やすごみの中に入ってくるプラスチックは、容器でも包装でもない、例えばプラスチック製のハンガーや、きちんと分別されていないプラスチック容器などが挙げられる。いずれにせよ燃やすごみの中にプラスチックは一定量入ってくることになり、それを燃やすと二酸化炭素が排出されることになる。 では、この燃やすごみの中のプラスチックをどのように減らしていくのかというと、分別や収集等の仕組みを大きく見直さないと、解決しないものである。 これに関する動きは二つあり、一つはいわゆるプラスチック新法が今年の4月に施行される。市としても法に合ったプラスチック対策に一層取り組んでいく必要がある。 もう一つは来年度中に武蔵野市でもごみの計画を作る予定であり、そこでもプラスチックの取り扱いについて議論されていく。具体的な対策はそういったところで出てくることになる。 あるいは逆に考えると、エネルギー分野に削減余地があるといえるものでもある。例えば再生可能エネルギーの電気を公共施設で使うと劇的な効果があり、これらを積み上げていくと目標を達成できるという見込みを持っている。
(6)	A委員	実行計画の中にこの先10年間の主な取り組みを挙げているが、どの施策をどのような順番でやっていくのかなどの施策の優先順位や行動計画を定める予定はあるのか。
	事務局	優先順位は、実行計画の中で定めるのではなく、これとは別に施策の効果の高さや予算などを総合的に勘案し、年度ごとに予算策定のタイミングで考慮するものである。
(7)	副委員長	資料6のP15「市民の取り組み」をCO2の質量で表現するよりも、実際各家庭に導入すると金額でいくぐらいになるのかを示したほうが、市民も実感がわきやすく、事業者側にも営業的な効果があるのではないかと考える。例えば、エネファーム等の費用は示せるか。
	H委員	いくぐらいの金額の設備を導入するとどのぐらいの削減効果があるかについて、またの機会に提供させていただく。
	事務局	今回の計画とは別に日々の行動の中で何をすればCO2がどのぐらい減り、金額はどのぐらいかかるか等を紹介する分かりやすいパンフレットや冊子を作っていきたいと思っている。